

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	考古博物館管理運営事業	会計	一般会計	事業No.	833	施策順No.	63-009
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-12-1		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	美術博物館		
施策	63 地域資産の保存継承			事業期間	開始	5	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 上郷考古博物館・秀水美人画美術館						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		施設の数(館)	2	2	2	2	2	
		圏域人口				177000	177000	
意図		1 施設の維持管理を行う 2 展示、講座を行うことで考古学の研究成果を公表する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	展示・講座等へ参加した人数	2139	1722	1971	1600	2686	2000	A
	観覧者、利用者数	1813	1794	2480	1800	2510	2000	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	展示・講座等への参加者が大幅に増加し、目標を十分に達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 上郷考古博物館と秀水美人画美術館において、展示、講演会、講座等を実施。 2 収蔵品の保管のほか、館の維持管理を行う。＜参考＞細々目名:考古博物館管理運営事業費 3 教育普及事業 (見学会、講演会、展示解説会、講座、勾玉作り、土器作り教室、ぎやまん工房、原始古代体験、夏休み考古博工房、地域学習見学、出前事業、職場実習、各種団体、その他講演会派遣等)を実施。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 常設展示の開催 2 展示事業 (1)春季展示「発掘された飯田城と飯田城下町」(3月20日～5月9日) (2)速報展「発掘された古代の飯田 2010」(5月22日～7月4日) (3)秋季企画展「古代の役所」(9月18日～11月28日) 3 教育普及活動 4 学校・地域支援事業 5 秀水美人画館の展示替え 6 図録刊行	1 開催日数 2 開催数 3 開催数 4 実施数 5 実施数 6 刊行数	1 299日 2 3回 3 101回 4 44回 5 4回 6 1冊
23年度実施計画	1 常設展示の開催 2 展示事業 (1)秋季展示「ときとまちを結ぶ 三遠南信自動車道の発掘調査から」(仮、10月1日～12月4日) (2)夏休み特別陳列「みて・ふれて・考えて-ぼくとわたしの考古学in夏休み-」(7月2日～9月4日) 3 教育普及活動 4 学校・地域支援事業 5 秀水美人画館の展示替え	1 開催日数 2 開催数 3 開催数 4 実施数 5 実施数	1 301日 2 2回 3 60回 4 35回 5 4回

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項 [22特定財源](そ)使用料 諸収入 [23特定財源](そ)使用料 諸収入	
		県支出金					
		起債					
		その他	201	812	452		
		一般財源	13,537	12,904	12,694		
	計 (A)	13,738	13,716	13,146			
	正規職員所要時間						
	臨時職員等所要時間						
	人件費計 (B)		0				
	トータルコスト A+B		13,716				

4 事業に対する市民や議会の意見

1 飯田市における考古学の専門施設であり、規模の大きな展示などより充実を求める声もある。
2 平成20年8月に伊那谷研究団体連絡協議会から飯田下伊那地域の豊かな自然と歴史・文化を発掘し、これを後世に伝えていこうとする活動の拠点として、その機能の維持を求める市長宛の要望書、市議会議員宛の陳情書が出された。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	1 地域を知る 2 地域を誇りに思う	施策の成果指標又はムトス指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数) 1 ふるさとを誇りに思っている市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・地域資源である考古資料を保管し活用を図ることにより、地域を知り大切に思う市民の数の増加に繋がった。		
	後期に向けた課題	・観覧者・利用者は増加傾向にあるが、広報活動を工夫することにより、新規やリピーターの数を増加させる必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・企画展示事業の回数を増やしたり、普及公開事業や出前講座の内容を工夫することで、観覧者・利用者増を図った。 ・様々な機会をとらえて広報活動を行い、平成22年度にはホームページも更新した。		
	後期に向けた課題	・観覧者・利用者の立場に立った分かりやすい事業を展開するとともに、対象をしぼった内容での事業を計画する必要がある。 ・学校・公民館・地域団体との連携を深め、そのニーズにあった事業を計画する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・施設管理経費を含むため一定の固定費が必要となるが、手作りの展示、印刷物の工夫、光熱水費・燃料費の削減など、必要最低限の費用での事業実施に心がけた。		
	後期に向けた課題	・削減できる経費はほとんどないが、借地料改定時には課税標準額の下落に伴う借地料の引き下げ交渉を行う。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・地域資源である考古資料は市民共有の財産として市教育委員会が所蔵しており、市が保管活用の費用を負担するのが当然である。また、観覧料や講座材料費として受益者に応分の負担をいただいている。		
	後期に向けた課題	・特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	・主体は学校・公民館・地域団体などの方々と、来館・出前などでの利用や各種事業の参加でアドバイスを受けた。 ・それぞれの団体・個人のニーズに合わせて、事業内容について工夫した。		
	後期に向けた課題	・地域の歴史資源を保存活用する立場として、資源を馬津活用した展示・講座などを展開する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・4年間の前半は利用者などの現象がみられたが、多様な活動を展開することにより、利用者の増加に転ずることができた。		
	後期に向けた課題	・対象をしぼった展示・講座内容を考えていく。たとえば、小中学生が手にとって考えられる展示や出前講座などの展開を検討する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--